

三代同堂懇親會 佛光信仰喜傳承

【人間社記者 覺智 日本報導】 2016-01-04

仏教を次世代に伝承するため、東京佛光山寺はお正月に「三世代親子懇親会」を開催しました。信者たちの家族を寺院に招き、仏教の中の異なった家族愛を感受してもらいました。計 13 組の家族、40 名が懇親会に参加しました。また、ほかに約 50 名の来賓が列席しました。

法師たちは懇親会で参加者達を導き、仏前でお経を上げ、幸福祈願をしました。住職の覚用法師は、「人にとって家はとても大切です。仏教を信仰、伝承していくことは、家庭にとって大きな意義があります」と述べました。

続いて、子どもから両親にお茶を差し上げました。一杯のお茶は無限の感謝を表します。そして、一口目は両親の養育への恩を、二口目は両親の行き届いた配慮への感謝を、三口目は自己の永遠の愛を表します。その後、子どもたちは両親に愛の抱擁をし、その場の人々を感動させました。

懇親会の参加者は、皆さんとあまり面識のない家族を紹介し、心の思いも話しました。曾文宏理事は佛光大家族の中で、常に大きな幸福を感じていると話しました。曾理事夫人で東京協会の邱美艶会長は、この会を開催した寺院に感謝の意を表しました。長男の曾明仁さんは、両親が長年、佛光会の活動で忙しくしていることを心配し、両親にもう少しゆっくりして欲しいと述べました。お孫さんも目を潤ませながらお爺さんに感謝し、その場の人々は皆感動しました。

劉素梅さんはご主人、お嬢さんと一緒に参加しました。劉さんは佛光山に来て 20 年経ち、人生の真の幸福を多く学んだと話しました。白文美さんはお嬢さんの林佳奈さんと一緒に参加しました。白さんは、「娘はほとんどお寺で大きくなりました。佛光山、佛光会の方々がいつも傍にいることに感謝します」と述べました。お嬢さんはお母さんの話を聞いて涙を流していました。

鷹嘴英さんは、「以前、娘の担任の先生が、精進料理の食事だけでは栄養不足になるのではないかと心配していました。しかし今、娘は健康に育ちました」と話しました。奥さんの張恵娟さんは、「当初の青年団のメンバーの中の 4 人が出家しました。将来、娘も青年団に入って、佛光青年団がより大きくなることを望んでいます」と話しました。

ずっと厨房を手伝っている梁宝鑾さんは、「息子もお寺で大きくなりました。その

後、勉強と仕事で忙しくなりましたが、大きな行事の際には必ず参加することを息子と約束し、彼が約束を守っているのが嬉しいです」と話しました。

星野妙子さんは、「夫の支持があったからこそ、寺院でお手伝いすることができます」とご主人に感謝の意を述べました。池亀美華さんもお嬢さんとお孫さんと一緒に参加しました。彼女は、「佛光山に来てもう十数年です。ずっと家族をお寺に連れて来ようと思いましたが以前はできませんでした。何年か前に覚用法師のご縁で、お寺から歩いて 2 分の家に移りました。その後、法師に誘われ、夫もお寺に来るようになり、娘も孫を連れて実家に帰ってくるときには、お寺にお参りをするようになり、嬉しく思っています」と話しました。

その後、皆さんと一緒に「佛祖保佑你」と「我的家在佛光山」を歌いました。佛光大家族の中で皆さんが平穩無事、健康であることを願います。最後に、子供たちが両親に花を差し上げました。感動と名残惜しい雰囲気の中で、懇親会は円満に終わりました。